

清月記 SPECIAL対談

関 清子さんが語る「女性の生き方」

創業331年の歴史を持つ、仙台市国分町にある芭蕉園茶舗の14代として活躍する関清子さん。「ますます便利になる世の中で、心の豊かさが求められ、それが素敵な未来を切り開いていくのではないかと語ります。

「心の豊かさを未来を切り開いてほしい」

小さい頃は、商売は嫌だと思っていました

菅原 関さんは、四姉妹の四女とお聞きしましたが、関 上の姉たちとは年が離れており、それぞれ早く結婚しました。私が高校生の時には、家に子どもが私1人しかいなかったのです。母は父の仕事を支えておりました。静岡からお茶の間屋さんが泊まるときには布団を干したり、走り回っておりました。そんな母を見ておりましたので、実は、商売というのはとても大変で、嫌だなあと思っていたのです。

でも、私が熱を出して寝ていたりすると、母や祖母が枕元にお菓子を置いていたりして、くれまして、厳しい半面愛情一杯に育てられ、自分がこの商売を継いでいきたいと思うようになりました。



菅原 裕典 すがわら・ひろのり

1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京葬儀社入社。85年3月、父・清一とすがわら葬儀社設立。1991年、(株)すがわら葬儀社の組織変更。2000年エポックせんない設立。2001年より(株)すがわら葬儀社代表取締役。2001年せんない泉エフエム放送取締役。2001年4月より社会福祉法人 無量寿会理事長就任。2010年(株)清月記に社名変更。2011年5月認定NPO法人JETOみやぎ理事長就任。2015年1月仙台市青葉区木町通「仙台迎賓館 斎苑」運営。2015年7月、国際ロータリー第2520地区ガバナー就任。2019年4月宮城県空手道連盟会長

菅原 お父さまはどのような方でしたか。

関 父は、お茶の品質をとっても大切にしてくださったので、新茶が出る時期にはいつも神経をピリピリさせていました。他店のお茶と飲み比べたり、自分が納得するまで販売しない、こだわりのもった父親でした。

菅原 厳しかったですか。



関家の過去帳。初代は元禄年間に来て遡る

関 はい、厳しかったですね。大学に行くとき、仙台の大学だった何年でも家に居たいが、東京なら卒業したらすぐに帰ってこいと言われて。門限が7時30分の寮で学生時代を過ごしました。

菅原 どのように過ごされましたか。

関 小学校からバレエを習っておりまして、大学ではパートナ―校の慶応大学舞踏研究会に所属して競技ダンスに明け暮れておりました。私が小さい時は、店と自宅の回りは、いわゆる花柳界の方が住んでおられ、練習をしている三味線の音が聞こえたり、人力車



昭和10年頃の関家の家族

もまだ走っておりまして。大学の寮が赤坂にあり、とても華やかだったので友人たちはびびくりしていました。私は一つも珍しくなかったのを覚えています。

いつも地域の方々に支えられて、創業331年

菅原 芭蕉園は、元禄元年にまで遡るそうですね。

関 江戸初期に宮城県岩出山地方から仙台に来て商いを始めたと言われております。過去帳には、初代が関屋傳兵衛、2代目が関屋傳吉とあります。最初は穀物商、その後、米問屋を続け、太平洋戦争が始まった昭和16年に、国から米の統制販売を命じられたことをきっかけに、1

してきたことを改めて実感しました。感謝に尽きます。

ペットボトルは喉を潤しお茶は心を潤します

菅原 若い方はペットボトルのお茶が、日本茶だと思っています。

関 お店に来ていただくお客さまに、お茶のいれ方のちょっとしたコツをお教えしたりしますと、とても喜ばれ、日本茶ってこんなに美味しいものなんですねと言っていただけです。ペットボトルは喉を潤す、急須でいれたお茶は心を潤すものではないかと思っています。

菅原 お茶もいれ方一つで変わりますね。私は、宮城学院中高PTAの仕事にも携わっておりますが、日本の私学なら、お茶や着物、書道は高校時代にできるようにし

ておいてほしいとお願ひしています。海外では民族衣装を着る文化をとて大切にしています。国際化が進めば進むほど、日本の文化を大切にしたい、海外の方に伝えていくことで、お互い分かり合える一歩になると思います。会社の式典などで、和服をきちんと着られるとなれば、とても喜ばれますし、それだけで評価が高くなります。



父・清氏の90歳のお祝い



令和の時代を迎えて

関 私も会社の若い方におじぎの仕方やお金の渡し方などを教えたりしています。

菅原 それを、嫌みなく伝えていくことが大切ですね。

最後にこれからの女性のためにメッセージを。

関 ますます便利な世の中になっていく中で、一層心の豊かさが大切になると感じています。女性が季節感や和の心を日常に取り入れることができたなら、素敵な未来を描けると期待しています。若い方には負けてられません。

菅原 お茶の文化はとて大切で、日本人だからこそできることです。そして自分を磨くことで精神的ゆとりが得られ、明るく物事を捉えられるのです。今後とも活躍を期待しております。



関 清子 さん
せき・きよこ

●昭和25年(1950年)5月6日、父・関清氏(大正3年生)と母・貞子さん(大正9年生)の4人姉妹の4女として、仙台市国分町に生まれる。69歳。

●仙台市立立町小学校から仙台二中、仙台白百合学園高等学校卒業後、山脇学園短期大学食物科に入学。

●大学卒業後、仙台に戻った翌年、宇(たかし)氏と結婚。由佳子、多江子、裕美子さんの3女に恵まれ、50歳まで家庭の中心に携わってきた。

●関家の14代目。現在は、有限会社芭蕉園の専務取締役として、自ら主催する小学生を対象としたお茶会や渉外などを担当、お客様との店頭販売にも力を注いでいる。3女の裕美子さんが、関家15代を継承する。

●趣味は、小原流の生け花と18歳からたしなむ裏千家の茶道。



清月記グループ 代表取締役社長 菅原 裕典
総本社 / 仙台市宮城野区日の出町 2-5-4